



プリントアウトした請求票は、所蔵部署階のカウンターにお持ちください

111年06月07日 11:43:06

111年06月07日 11:43:06

入館証番号:

入館証番号:

Call Slip

<請求票>
Call Slip

9240
8

<請求票>(控)

書名
資料名: 支那の知性
巻次:
著者名: 林語堂 著
出版者: 創元社
出版年: 1940
大きさ: 18cm
頁数: 364, 2p

資料名:	支那の知性		
巻次:			
著者名:	林語堂 著		
出版者:	創元社	頁数:	364, 2p
大きさ:	18cm	出版年:	1940

切り取り

所蔵館 : 中央
 所蔵部署 : 1階資料お渡し・返却カウンター
 配置場所 : 1/66A 中)B1書庫A
 資料ID : 1127116609

所蔵館 : 中央
 所蔵部署 : 1階資料お渡し・返却カウンター
 配置場所 : 1/66A 中)B1書庫A
 資料ID : 1127116609

請求記号
9240
8

一社人自東新	力	事
↓		
一社人自東新	請求	報告
MB1 マイカ B1 アルファベット 原紙 縮刷		
MB2 マイカ B2 洋 中 朝		
行 1F B1 B2		
多 児 青 1F B1 B2		

喪はれたる官人

支那共和國最大の不幸の一つは、昔の官人 *mandarin* の消滅したることである。私は大清帝國の遺物の中にこの世にも稀れなる紳士の標本を捜しつづけて來た。といふのは、私の信ずるところ、それは支那文化の最も麗しい成果なのだから。大清朝廷は腐敗してゐただらう。さうだ、信ずべからざるほど腐敗してゐただらうが、しかしあの清朝政府の悪者たちは飛切りに磨きのかかつた紳士であつた。かういふ官人といふものは、數世紀に亙る教養と洗練と傳統との所産であつた。完全なる官人は、完全なる美しさと同じく、おそろく稀れであつたらう。それは事の本質に存してゐる。しかし我々は各時代に少くとも數十人の良き官人を持つてゐたのであるが、今日では僅かに王黨の同志があるにすぎない。ところがこの同志とは、ボルシェ

ヴィキが、少くとも育ちのわるい民主主義者のことであつて、官人とはこれに反しほんとに磨きのかかつた紳士をいふのだ。我々はそれを數十人持つてゐたが、持つだけの値ひはあつた。その魂はひどく墮落してゐたにも拘らず、彼の存在は他の人にとつて眼の欣びであり、彼の舉措は自分のみでなく彼に嫁女を捧げた人々にも引出物となつたのである。彼の聲は深々と響き渡り、彼の舉止は均衡がとれて穩かで、彼の言葉は藝術で、そして彼の爲人は學識と柔和と權道とそれから育ちのよさの組み合わせであつた。

官人の定義をすることは、紳士の定義をすることと同様、おそろく益のないことであらう。彼は恆に定義を無視しながら、否定し得ざる宇宙の事實としてそこに存してゐる。しかし君は、頭髮の分けかたによつて紳士を識別し得ると同じく、話してゐるのを聞けば官人たることが分るだらう。紳士の場合には、聲の響きと肩の素振りに何處か女性を欣ばせ、また昂奮させるものがある。而して如何に多くの外人たちが Li Hungchang (李鴻章) の聲や Wang Shik'ai (袁世凱) の眼に魅せられたことか！ さういふものがもはや存しないといふことは、何と残念なことだらう！ ほんとの官人を知るには、ただその話を聞けばよかつた。彼は勿論官話を語つ

たのだ。時は官話を語ることが一つの藝術——それ自身を楽しむことの出来た藝術であるが、それを完成するためには半生を必要とした——であつた時代である。それは相當利口な子供なら三ヶ月で覚えてしまふオクスフォード方言のやうに、全然アクセントだけのものではなかつた。私の記憶をたどると、私は彼の言葉の深々と響き渡る聲、彼の北京風のアクセントの美しい抑揚あるリズムを、時に適つた、同じくリズムに富んだ笑ひを交へて、聞いたことがある。ああいふ完全な官人の談話をもう一度聞けるものなら、死んでもよからう！ といふのは、これらの官人たちが民衆を收奪したとしても、彼等は手際よくかつ慎重に收奪しすべての過程を彼等にもまた犠牲者たちにも、楽しくかつ洗練されたものに見せたのであつたから。今では事情が違ふ。我が現代の官吏たちはただ嘘をつくだけ、しかも極めて野暮な、厚顔な、無能な、そして不道德な流儀で嘘をつくだけしか出来ない。我々は收奪されねばならないとすれば、少くともそれを楽しむことが出来るやうにして欲しい、しかし我々はそれさへ出来ないのだ。これこそ官人の消滅が支那共和國最大の不幸の一つたる所以である。

だが官話を語ることが全くアクセントの問題であつたとすれば、それは藝術の名に値ひしな

いであらう。すべての藝術と同様、それは藝術家の側における知性と道德の背景を必要とした。完全な官人の談話においては、凡ゆるものが調和的であつた。談話者の爲人、部屋の調度類、禮儀作法の雰囲気、彼の聲の調子、完全なアクセントと洗練された語法、圓い絹團扇、官人髯と馬褂——これらはすべて相合してあの調和的な藝術的效果を興へる。たとへば、誰れも西洋服を着て官話を話すことは出来ないが、それはこれに伴ふジエスチミアが矛盾するからである。たとへばゴルフ・パンツを穿いて圓い絹團扇を携へるとか、帝國官話で話しながらハンカチーフで鼻をこするとかは、全く災難であらう。鼻をこする代りに咳をして唾を吐かねばならぬ、しかも決まつた作法で咳をし、唾を吐かねばならぬ。それから官人髯であるが、これは少しなりとも威厳らしいものを生ずるまでに時として半生を要することがある。この點の資格を具備するものとしては、Ke Keig (于右任) が考へられ得るにすぎない。Dr. H. H. Kung (孔祥熙博士) は目下養成中であることを私は知つてゐる。She Ho (孫科) と T. V. Soong (宋子文) とは一本も髯がなく、將來も生えさうにない。第三には談話の穩かさ、聲の調子、それから精神の平衡であるが、これは威厳のある、平衡のとれた爲人を前提する。而して威厳のあ

髯はれたる官人

る、平衡のとれた爲人は、榮養のよい満ち足りた魂を必要とするが、これはまた學問と穩かさ
と經驗と勇氣とを必要とする。官人は面目を失することはあるかも知れないが、威嚴を失する
ことは決してない。彼は優雅に唸り、作法通りに唾めをする。もし床に轉ぶことがあれば、起
上りながら先づすることは鎧甲の眼鏡を直すことである——ゆるゆると、正しく。我が現代の
大臣たちはフットボールでも蹴ることが出来さうに見える。フットボールを蹴ることは甚だ威
嚴を失した體の嗜好である。……Lo Weikan (羅文幹)は葉巻をさへ喫ふ。ところで葉巻を
喫つて何うして官話を話すことが出来るか？ 水パイプのものなのだ。當然のことだが、私は
彼人で誰れ一人としてほんとの官話を話さうと努力さへする者が無いことを知つてゐる。彼等
は廣東語・蘇州語・無錫語のあひの子の變種を話す。實はそれでもよいのだ。……

最後に、官話を話すには特別の語法を必要とする。その語法は一部は技術的、一部は文學的
である。技術的方面に關する限りならば、今でも政府の屬吏が大臣に教へることが出来よう。
彼等は素材を知つてゐるのだから。そしてもし大臣たちが利口ならば、容易にそれを覺えるこ
とが出来らう。それは實際覺えると甚だ愉快なものである。たとへば、自分の息子のこと

を言ふ場合はこれを『狗兒』と呼び、他人の息子をいふ場合はこれを『虎子』と呼ぶ。また自
分の妻は『蕪妻』にすぎないが、友人の妻女は『夫人』である。人を自分の家に招待するには
『駕を枉げて御光來』を乞ふのである、等々。かういふ鄭重な區別は、人をしてほんとに教育
を受けたやうに感じさせる。それは精神を向上させる。

しかるに語法が文學的な限りでは、私は我が大臣たちにそれを試みることをさへお勧めしない。
それは困難な勉強と數十年の練磨とを意味する。これこそ、完全な官人の談話といふものが極
めて稀れで、そしてそれに遭遇すれば極めて欣ばしい理由である。官人に對してどんな惡語が
放たれやうとも、彼は大ていの場合、支那の歴史と文學と説文(Shih-wen)について相當の知
識を持ち、文學的な論策及び詩の數十篇を暗誦することが出来たのだ。眞の官人の會話は文學
的談話であつた。話し手は倫理學にも、また政治問題にも通曉してゐた。といふのは、支那の
官人はフランス型の宮廷人ではなかつたのだ。彼は本職が學者であつた、彼は學者らしく話し
た。彼は公共の政治哲學と私人の倫理哲學とを併せ持つてゐた。彼は宮廷人と學者とを一身に
兼ねてゐた。君は一流の官人と、荀子につき、墨につき、元の戯曲につき、宋の倫理學につき、

そして明の陶儼につき、談ずることが出来た。而して現代の役人たちは一ガロンにつき二十哩の小麥借款について二パーセント半ばかりと、それからカールトンについて語ることが出来るにすぎない。

しかり、官人の時代は去り、嘘をつく術は衰へた。李鴻章の如き人物に代つて我々はベルリン大學卒業生を、Tseng Kuofan (曾國藩) の如き人物に代つて、Chang Tsungchang (張宗昌) とその同類を持つてゐる。我々は『幸福即幸福』(福祥) とか『金と硬玉』(金玉) とか、『幸福な一角獸』(福麟) とか稱する將軍たちを持つて居り、そしてその妻妾は『ミス・パール』とか『ミス・スプリング』といふやうな歌妓の名を持つてゐるのだ。我々がかういふ男たちに收奪されぬはならないとは、肩身の狭いことである。

つい先日のこと、私は眞の官人らしい風貌の人物に遭遇した。彼は榮養がよかつた。彼は手に Ssuma Kuan^光 (司馬光) の『資治通鑑』を持つてゐた。彼は歴史と詩と書とを愛してゐた。そして彼は完全な官語を完全なアクセントをもつて、彼が立派な讀書人たることを立證する、あの言葉の確かさをもつて話した。私は彼が民衆の窮乏、官吏の不道徳、映畫のおそるべき影

響、儒教倫理の重要性、並によく組織された文官制度の必要について語るのを聞いた——それは楽しいことであつた。彼の談話は極めて滑らかで、私は獨り言をいつたのである、『ここに官人の學識と柔和と權道と育ちのよさを具へた、最後の官人がある』と。彼は大きな官吏となることが出来たであらうし、そして不正直であることが出来たであらう。支那は尙ほ救はれるかも知れなかつたのである。

私は如何にして徳望を得たか

私は如何にして徳望を得たか。これがトピックである。即ち言ひかへると、私は如何にして支那の紳士となつたか、である。私はまだ全く徳望を得たといふわけではない。馴養するといふ凡ゆる教育的及び社會的過程に幾分抵抗する要素が私といふものの中に存してゐる。我々が三流の外交官や一流のYMCA理事に期待するあの柔和な、『バタも口の中で溶けまいと思はれる』風貌を得ることを妨げるものが、若干まだ私に残つてゐる。私が人々を欣ばす努力をしなかつたといふのではなく、いつも成功しなかつたことを知つてゐるのである。私はたださういふ生れつきでなかつたといふことを承認する。もし私が破産したとして、そして『徹底的に馴らされた男』の求人廣告があつたとしても、私はそれに應募する積りはない。それはY.P.

S(一品養)のホテル・ボーイの誰れにでも任せる。

しかし私は、或る程度は全く柔和になつたといふことを、人々に銘記して貰ひたいのである。この性質を持つやうになれば、人は徳望を得る道にあるのであり、したがつて成功の道にあるのだ。そして私がさうなのである。三十五年の生活は私にそれをしてくれた。いふまでもなく、最も大きな進歩をしたのは最近十年間の大學卒業後の生活であり、支那社會における現實の苦勞であつた。私は一抹の怨色をも顔色に現はさないで、公然たる侮辱を平静に受けとるまでにさへなつてゐる。したがつて私はすでに一人前の支那紳士なのだ。

しかし私の社會教育の過程は甚しく苦痛なものであつた。蜜蜂はその動物性に何かの暴力が加へられるのでなければ、その針を抜くことは出来ない。しかし、人間の場合は、知性が極めて重要な役割を演ずる。彼の知性が彼に告ぐるに、彼の針を抜くことによつてその社會的成功の見込みは、犬が狼よりも食物がよいと同じであらうとも、著しく高められるといふことを以てすれば、彼は、よしんば若干の精神的動搖を犠牲にするとも、よろこんでそれを抜くだらう。私は私の自牙を抜いたが、しかし非常にいい仲間に加はつてゐる。

私は如何にして徳望を得たか

支那の紳士とは何であるか？ いくつか前、何處かで私は、支那的教養の本質が次の三つから成つてゐると規定したことがある。即ち(一)嘘をつくこと、すなはち自分の言葉で自分の感情を匿さんとする眞剣なる希望、(二)紳士らしく嘘をつく能力、並に(三)自分の嘘と友人の嘘とを一のユーモア感をもつて併せ受け容れることによつて示される精神的平靜さ。人はこの三つの習慣を、支那社會に著しく適合せずしては獲得することが出来ない。その頃になると、彼の教養の効果は彼の顔にも拭ひ難き徴表を印するに相違ない。我々はみなその顔を、唯々諸々の男 *young men* の顔を知つてゐる。それは、彼の欲するすべては生きることと生かしめることであると全世界に苦ぐるところの動物的肉塊——虚ろな眼、破格な鼻、好色らしい口、圓い頬、そして頤の最後の痕跡——である。

私がヨーロッパから歸つたとき、私はまだ徳望を得てゐなかつた。私はスペードを農業用具なりと呼ぶ習慣を持つてゐなかつた。私は當時精確には唯々諸々の男でもなかつた。また私は支那人のユーモア感を全く缺いてゐた。私は自分の仕事に餘り眞剣になりすぎることにより、そして普通の流儀で嘘をつかぬことにより、絶えず洗練の足りないことを示した。漸次如何に

して私が教養を獲るに至つたか、これは若干のエピソードからだけ説明し得るのである。たとへば私はかつて或る大學で働いてゐた。そこで私は文學部長と呼ばれてゐた。偶々その最上の地位には自由なユーモア感を持つた老人がゐた。彼はこの學則あの學則と二週間毎に——前の學則を忘れてしまふのに丁度要した期間である——持ち出す習慣を有つてゐた。しかるに、たとへば訪問者が大學内で誰れかに會はうとするときは門衛はこれを何處に案内するか、といふやうな最も簡単なことは無視されてゐた。また職人の機嫌が一番悪いときに建てられたものかと思はれる番宿舎があつて、たとへば日中廊下を歩いてゐて躓くおそれのあるほどのものであつた。私はこれを恥辱と稱し、その旨を老人に述べた。彼は欣ばなかつた。

私は眞實を述べるといふこの悪い習慣があの社會に及ぼす驚くべき結果についてはまだ知らなかつた。我々の大學基金は若干ゴム市場に繋がりがあつて、制度の中の凡ゆるものがゴムの性質を帯びてゐた。外の人には花を引用するが、我々はゴムを引用する。我々の分科はゴムで、自由に膨らんだり縮んだりした。我々の學内政策はゴムで、「丁度思ひつきに上つた學則」に氣をよくした老人の大言によつて膨らみ、學生のポスターに脅かされて縮んだ。我々の俸給額

私は如何にして徳望を得たか

はゴムで、ほとんど信ずべからざる弾力性があった——ただゴムを引つばることを忘れただけのために、釘づけにされてゐる一流の物理學教授があつた。また我々はゴムの豫算を持つてゐた。我々はいつもいつも、毎週または隔週に新しい年度豫算を決めてゐた。二ヶ月の間に第五回目にまた一つの『年度』豫算を『決定する』するため會議が開かれたとき、私は自分の教養を忘れて老人を怒りつけた。ほとんど毎週、氣壓に合わせて豫算を伸縮するため會議を開かねばならないなら、何かを決定するといふのは一體何の用があるのかと、私は無作法に彼に言つたのである。それは私の忍耐の弾力性を餘り大きく見積りすぎたものであつた。老人は返答をしなかつた。彼は窓から外を見てゐた。さて、翌年の春私は辭任しなければならなかつた。私は辭任しなければならなかつたのだ。

これは明らかに私の顛落を記録するものであつた。その時以後、私はもはや理想主義者ではなくなり、そして支那人のニーモア感を體得した。私は甚だ教養を加へられて、誰れとも仲よくするに至つた。あの老人は『私に教訓を與へた』のであり、そして私はそれを胸に焼きつけた。彼は、明らかに今度はニーモア感を持たずに、私を忌々しきならず者とか其の他これに類

する肩書をつけて、教育部に書翰を送ることにより、もう一つ私に教訓を與へようとしてゐた。しかし私はもうすでに彼によつて教養を受けすぎた。教育部はこの書翰を紙屑籠に抛り込んだが、私はこの老人を精神的に十八層の地獄に抛り込んだ。そしてこれが私の老人の顔を見た最後である。

さて今、ニイチエが『危険期』と名づけた『人生の晝下り』に、私は安全に世界のすべてと平和に暮らしてゐる。私は人を怒らすことを卒業したので、安全なのである。一卷の詩を携へて意見を叩きに来た一人の詩人があつたが、私は印刷が良くて装幀が素晴らしいことを親切に述べた。また或る人が或る文學グループの事業について私の意見を求めたときは、彼等には大きな將來があつて、幸運を祈つてゐると答へた。つい先日のこと、或る外人の友人が馮玉祥について私の意見を求めたときは、私は支那の紳士だから意見を持たぬと言つた。その同じ外人の友人が、蔣介石委員長の最近の洗禮をどう思ふかと聞いたときに、私は言つた、『それは結構なことだ、また一つの魂が救はれた！』と。彼は私から何も得ることは出来なかつた。多分その外人の友人は私を忌々しい畜生だと思つたことだらうが、しかし私はこの機會を利用して、

私は如何にして徳望を得たか

私は厳密に支那の紳士たるべき法則にしたがつたこと、そして今後も私は支那の社會において成功を望んでゐるから、私の教養を固持する積りであることを彼に確言したいのである。されば神よ、私に冥助を給はらんことを！

跋

本譯書は故喜人虎太郎君の絶筆となつたものである。彼はこの譯稿の筆を擱くとともに病臥の身となりつひに起たなかつた。暗然たるを禁じ得ない。しかし、豫定通り上梓の運びとなつた。これを靈前に置くことの出来るのは、われわれせめてもの慰めである。故人は本譯書に就いて、はじめから終りまで、知友尾崎秀實君の非常なる配慮にあづかつた。それで、多忙な同君をわづらはして、特に序文をものして貰つた。これ故人の最も欣ぶところと信ずる。

裝幀は、水野成夫君と小生とで、無い智慧をしぼつて考へたものである。

本譯書に就いては、故人は、尾崎君を始めとして木下半治、喜多野清一君、陶晶孫氏、本多顯彰氏その他多くの方々の好意に預つてゐる筈である。小生より代つて深く謝意を表したい。なほ、此の機會に、故人が生前知遇を忝ぶした先輩友人各位に、心から御禮申し上げて

- (12) 論語微子篇に「子路從ひて後れ、丈人杖を以ちて^杖襜を荷へるに遭へり、子路問ふて曰く、子、夫子を見しかと、丈人曰く、四體勤めず、五穀分たず、孰れか夫子と爲さむと、其杖を植てて芸る、子路拱して立つ」とあり。史記にも同様の記述がある。
- (13) 論語子罕篇に「子貢曰く、斯に美玉あり、匱につつみて藏せむか、善賈を求めて沽らむかと、子曰く、沽らむかな、沽らむかな、我は賈を待つものなり」とあり。
- (14) 史記孔子傳に「孔子鄭に適き弟子と相突す、孔子獨り郭の東門に立つ、鄭人子貢に謂ふものあり、曰く、東門に人有り、その顛は堯に似、その項は皋陶に類し、その肩は子産に類す、然れども要より以下は鼻に及ばざること三寸、鼻々として喪家の犬の若しと、子貢實を以て孔子に告ぐ、孔子欣然として笑ひて曰く、形狀は未だし、而れども喪家の犬に似たりといふは、然るかな、然るかな」とあり。

支那人のリアリズムとユーモア

最近私は、支那人にも外人の観察者にも等しく一の謎になつてゐる、この我が大國の示した不思議な現象について、大いに考察を施しつつあつたところである。我々はい先週、支那が國際聯盟理事會の椅子の獲得に失敗し、ガマラのやうな小國がこれを獲得したといふことを聞いた。この事情には何か變調のものがあるのだが、實はこの變調こそ、我々が今日我國において面してゐる事情そのものの中に存してゐるのだ。私は血の氣の多い一人の支那人として、國民革命以來行はれた變化を最初は高い期待と熱意とを以て、次には苦しい失望と憤激とを以て見守つて來たのであるが、この國では物ごとの起るや全く不合理を極め、泣いてよろしいか笑つてよろしいか、私はほとんどこれを知らないほどである。また私は、進歩と改革とを旨とす

すべての人間の努力を水泡に歸せしめる要素もしくは諸要素を知るため、自分で病患の分析を試みつつあつたところである。といふのは、上記の點について種々の辯解はあらうとも、私は率直に、支那は十九年以前共和國を樹立した當時に比較して、少しも生活の安全な國になつてゐないことを容認しなければならないからだ。何か妙な病氣がこの國の民衆にとりついてゐるらしい。それとも、この我が母國の運命にまつはつてゐたのは何かの悪靈であつたらうか。明らかに、我々の心理的素質の中には、進歩と改革とを阻む或る要素が存在してゐる。その要素が何であるかを發見するため、私は脳髓をしぼつた。そして私は、支那を遅れさせ、國民を破滅せしめんとしてゐる大きな原因は、物に動かされぬエーモア感、即ちあらゆる理想を笑ひ飛ばし、罪惡そのものをさへ、人生の必要なる一部として微笑をもつて眺めるところの、エーモアであることを發見したのである。支那はあらゆる改革の努力を笑ひ飛ばし、最も緊切なる國家的政策を、スローガンと美辭麗句の貼り交ぜ——これを政治家たちは言ひ争ひ、一般の者は誰も鼻であしらふ——に化してしまふといふ、恐るべきやり方を持つてゐる。我々の間にも老獪があつて、すべての政治的改革を笑劇に化し、そしてすべての人爲的制度を單なる冗談と

して取扱ふ。支那人は最も刻薄なりアリストであると共に、地球上最大のエーモリストであるが、それこそ我々が國際聯盟においてガテマラに敗北を喫した理由なのである。而して私はこの私の分析の正しさを固く信じてゐるので、出来るだけの方法をもつてそれを諸君に説明したいと思ふ。

一言にしていふと私の命題はからである。支那が破滅に瀕しつつあるのは、すべて若干の説明を要するが、専ら不平等條約によるものでもなく、また前回の分析における如く匪賊と軍閥とによるものでもなく、また官吏の非文化主義によるものでもない。支那が破滅に瀕しつつあるのは、我が匪賊と共産黨と官吏とがすべて偉大なエーモリストだからであり、またこの匪賊と共産黨と官吏とが收奪するところの民衆もまた偉大なエーモリストだからである。支那が破滅に瀕しつつあるのは、匪賊と共産主義と官吏の腐敗に關する、我々の寛容なエーモリスト的見解に因るものである。寛容はエーモアから生れる。地球上の何物と雖も支那人を怒らせ得るものはない。罪惡と貪欲と腐敗は、ただ我々を笑はせるだけにすぎず、また高遠にして美しい理想は尙ほ更我々を笑はすにすぎない。それは放浪者に似た生活態度であつて、からも言ふのであ

る、『畜生め！我々の住んでゐるのは相當に悪い世界であるが、しかし何故それをそんなに固苦しく考へるのか。元氣を出せ、そして太陽の照つてゐる間に早く乾草の束をつくれ。』これは、如何なる理想主義をも胸の中に呑み込んでしまふといふ型の、刻薄なリアリズムとユーモアであり、また我國の如き極めて古い文化の結果たる、寛仁應揚にして同時に極めて抜目のない、老齡から生れた生活觀なのである。支那が破滅に瀕しつつあるは、我々が生活を茶化して見る見方に因るものであり、我々が凡ゆる事物を冗談にしてしまふといふ氣風に因るものであり、何事によらず、我國の救済といふ問題に關する場合でさへも、我々が物事を眞剣に考へることが出來ないといふことに因るものである。

諸君は多分、支那人は一體ユーモアの感覺をもつて居るのかと訊ねるだらう。私の答へは、支那人のユーモアは西洋人の誰れもが聞いたことのない凄さを持つものだ、といふのである。それは普遍的であつて、地上に比較すべきものがない。支那人はユーモアの感覺をもたぬ、といふ人々が誤まつてゐることを證明する爲、一つの實例を示さう。ユーモアの感覺をもたぬ外國人は、阿片の禁壓といふことが全く眞剣な事業であつたと考へるに相違なからうが、しかし

諸君も知る通り、支那人は誰れもが Chang Chichiang (張之江) の阿片反對運動を一つの大仕掛けな冗談と解してゐたのである。諸君は、廣西討伐戰の始まる直前、百年來最大の阿片暴獄となるかと思はれたものが、四人の汽船ボーイを獄に投ずることによつて終りを告げたことを記憶するであらう。張之江氏は禁烟委員會の議長を辭任し、世間は犠牲にあげられた四人の汽船ボーイをよい物笑ひの種とした。諸君はまた、軍事整理會議こそは大人の眞剣な事業と考へられたかも知れないが、しかもそれに參加した者は誰れもが、學校兒童の笑劇の役者であり見物人であることを知つてゐたのである。しからば諸君は、この老獪なる支那を何としようとする。

私は支那人のユーモアが西洋のユーモアと若干異なることを述べておいた。それは後者より、アメリカの俗語でいへば、賭金が多い。たとへば支那の葬列を例にとらう。浮浪人や乞食や街の頑童がその汚れた顔に如何にもげげしい衣裳をつけてゐるのは、見るに甚だ滑稽である。外國人は諸君に訊ねるだらう、『あれは滑稽にうつらないか。汚れた顔とげげしい衣裳とは如何にも不似合ではないか。支那人はユーモアの感覺を持たないのか』と。諸君の返答はか

うだらう。『あれは正しく、支那人が立派なユーモアの感覚を持つてゐるからなのだ。衣裳はただ形として着てゐるだけのことで、我々はそれを固苦しく解してはゐない。諸君はこの行列に美的考察を讀みとらうとしてはいけない。葬列の人夫の顔を洗ふことは餘り事が固苦しくならう。顔を洗ふには石鹼が要るし、石鹼には金がかかる。そんな不必要なものに金を費すとは何事だ。』物事を餘りに固苦しく解し、これを眞實の美的な見世物にしようとしてゐるのは、支那人ではなくて外國人だといふことを諸君は見られるだらう。

他方、西洋人がユーモアを缺いてゐることは次のことから説明されるだらう。諸君は宣教師たちが、ミッション・スクールに關する規則及び統制を實施せんとする政府の命令を、全く固苦しいものにしてしまつたことを御承知であらう。これら外國の淑女紳士たちは全然ユーモアの感覚がないのである。彼等は會議を開き、集會をし、決議をつくり、そして代表者を教育部長の許に派遣する。或る者はこれまで生活の保證となつてゐた學校を閉鎖し、自國に歸つてしまはうといふ重大なことまで考へる。しかるに彼等の爲すべきであつたことは、事物を軽く解して、教育部長の訓令を一語一語承認し、學校廣告から宗教的訓誡の項を抹殺し、講堂に孫

逸仙博士の肖像を掲げ、かうしてすべてを支那流に冗談化してしまふことであつたのだ。しかし彼等は良心の苛責を有するといふ。なるほど、良心の苛責をもつ者は、同時にユーモアの感覚をもつことは出来ない。彼等がユーモアを缺いてゐるのに比較して、南京の要人たちが上海事務所をつくつてはならぬといふ政府の命令を、如何に利口に、かつ單純に無視したかを見よ。彼等はただドアの表札を取替へて、これに實業監督局といふやうな名前をつけただけである。一人の人間も仕事を奪はれた者なく、ドアの表札は多分十弗以下ですむだらうし、命令を出した當事者も、これを無視した人々も、雙方ともに大喜びで、このユーモラスな話は鬼がついたわけである。ユーモアの感覚！それは何としばしば人を難局から救ふものだらう！しかし私はまた、宣教師がユーモアの感覚をもたないが故に、ミッション・スクールは冗談どころでないものとなり、一方支那の大學當事者たちがユーモアの感覚をもつてゐるが故に、支那の大學はあんな珍妙なものとなるのだと言ひたい。また私は、この芝居じみた生活觀が支那を破滅させるのだと言ひたい。我々は政府の命令を冗談にする。我々は孫逸仙博士を冗談にする。我々は國家建設大綱を冗談にする。我々は革新の後、國民黨の黨員のみが官吏たるべしと言ふ

とを出発点とした。そこで職業的官吏はこれを冗談に解して、良心に責められることなく国民黨員となつた。若干の眞の国民黨員は、彼等の入黨を見て自分が脱黨した。かくして支那は、依然として舊き支那である。或る國民がすっかり老獪になつてしまつて、生活の最も眞剣なところについても、時と場合にお構ひなく芝居をすることを止められなくなつてゐるといふ場合、諸君はこの國民を何う處置しようとする？ 神よ、陽氣な老いたる支那に加護を垂れ給へ！

私はこの支那型のユーモアを非常に注意深く研究して、その公式を發見した。その公式とは即ち、形式を甚しく尊重して、同時に實際生活においてこれを甚しく輕視することである。支那人のユーモアは支那人の形式主義の所産である。人爲的な形式を甚しく固執する場合は、何人もその空疎なることを見て、これをユーモラスに解釋せざるを得ない。他方、形式と感情とが密接な調和を保つてゐる文明においては、比較的人々は形式を眞剣に解釋することが出来る。西洋の葬式は眞摯な行事であるが、これは形式と感情との懸隔が比較的小さいからである。しかるに支那の葬式になるとさうではない。單なる形式にすぎない多くの笑劇じみた要素がそれにはいつて來るので、何人もこれを輕い喜劇として解するよりほかはない。たとへば、嫁を合

圖と共に柩の前に行つて泣かせ、大聲を揚げて哀哭させ、數を十數へて止めさせるとすれば、諸君はその嫁またはそのマスター・オブ・セレモニーの何れかを道化役としてよりほか考へることは出来なだらう。勿論その嫁は、次の瞬間には自席に歸つて、自分の赤ん坊に笑顏を見せるのである。

私はしばしば、支那人の教養とは何かといふことを疑問とし來つたが、私はそれが次の三つから成つてゐることを發見した。(一)嘘をつくこと、即ち辯舌でもつて感情を蔽ふことを眞剣に望んでゐること、(二)紳士らしく嘘をつく能力のあること、(三)自分の嘘と相手の嘘とをユーモアの感で解することにより心境の平靜を示し、かつ地上の如何なることにも熱中しすぎることのないこと、これである。この三つの老獪なる資質をもたぬ者は、支那では教養があると言へないのだ。實際私は、外遊前に古い支那に關する十分な素養のなかつた大ていの留學歸りの學生が、事實を事實として無器用に語り、軍人たちの聲明を文字通りに解し、自分の仕事を眞剣に考へるといふ、不幸な癖に陥り易いことを見てゐる。彼等はすべて、支那を救ひたいと言ひ、そして支那のため何か實際役に立ちたいと欲してゐる。彼等は茶を啜るよりも事務所

で忙しく働くことの方を期待する。彼等は謂はば道徳的責任ともいふべきものを雙肩に擔つてゐるとさへ空想する。しかし間もなく彼等は圓熟し、大人になり、教養が出来て、事務所で實際に袖を捲り上げてゐるといふやうな無作法な眞似を見せなくなる。古い支那のユーモアの感^覚が彼等にも移り、彼等は支那と世間に關してもつと洗練された、もつと穩かな見解を持つに至る。私の一友人は、アメリカから歸つた直後の若い時代、政府機關紙の編輯者たる地位を與へられ、愚かにも毎日社説を書いて意見を發表したものである。政府の官吏は彼をつかまへて、實際に毎日社説を書くとは何ういふ積りかと訊ねた。彼は免職になつたが、たしかにそれ以後彼は立派なユーモアの感^覚をもつやうになつた。彼は教養を高められたのだ。

我々の國語は、私が生活に關するま^じ居^りみ^だ見^解といつたものを確認するやうな文句を發達させて來た。たとへば

奉行故事(先例にしたがふ)、陽奉陰違(かげ日なた)、官樣文章(官廳式文章)、大家中國人(お互ひ中國人同士だ)

といふ文句が即ちそれであり、我々は、恰かも學童が石を投げて小鳥を殺すやうに、これによ

つて理想主義を殺して來たのである。我々は官吏の就任を止しくも「舞臺に上る」(上臺)と言ひ、その退任を「舞臺を下りる」(下臺)と言ふが、これは實際に嚴密に演劇的の意味であり、而して我々の最も喜ぶ演劇の種類はつねに廣い意味の笑劇^{コメディ}なのである。

かくして陽氣な老いたる支那は、聯盟理事會の椅子を失つた無念さにも、匪賊にも、共產黨の脅威にも、帝國主義の侵略にも、何等拘泥するところなく行進する。穩かな生活は、朗かに、かつ無事に續けられる。それは内に老獺の要素を秘めた朗かさである。それは世間を見つくし、そして希望も失望もともに超越した、老人の意地わるい、抜目のない、皮肉な笑ひである。人生は餘りに短くて、眞劍な事業をなすに足りない。それは老いたる支那の虚ろな、木靈する笑ひであり、その息吹きにふれると、凡ゆる熱情と希望の花も凋んで枯れねばならぬ。(一九三〇年十一月二十二日、オールド・カールトンの上海青年俱樂部における講演)